

やすだのぼる  
**安田 登**  
 能楽師（下掛宝生流：ワキ方）  
 寺子屋 講師 （阿弥陀寺）  
 こどもおばけ合宿 講師 //

主著に『論語』『あわいの時代』『あわいの時代の『論語』ヒューマン2.0』  
 『能 650年続いた仕掛けとは』他多数。

# こままたとき 親鸞聖人の 鳥



イラスト 中川 学

## いわんや悪人をや

社長から「今年の忘年会は焼き肉にしようと思うけど、どう？」なんて聞かれる。

人と議論をする、いつも負けてしまう。というか、言葉にまつてしまう。そういう方は、知らず知らずのうちに相手の土俵に乗せられて、そこで勝負をさせられることが多いようです。

議論というほどおかげさなものでなくとも、知らず知らずのうちに相手に土俵に乗せられてしまっているということがあります。たとえば、社長から「今年の忘年会は焼き肉にしようと思うけど、どう？」なんて聞かれる。

「焼き肉は忘年会つぽくないなあ」と思つて、「焼き肉はちよつと…」なんて言う。  
 「じゃあ、どこがいいんだ」  
 「居酒屋はどうですか？」  
 「そんなのいつも行つてるじゃないか」  
 「じゃあ、中華は？」  
 「中華は忘年会つて感じじゃないよ」  
 「和食はどうですかね？」  
 「うちの奴ら、和食つてガラか」  
 こんな会話を延々と繰り返す。社長は最初から焼き肉と決めていたから、結局、何を言つてもダメ。「なら、最初から聞くなよ」と思うけど、最初から「いつすね」なんて言おうものなら「お前は自分の意見がないのか」なんて言われてしまう。

こんな風に毎回、毎回、なんとなく気分が悪いというか、すつきりしない感じで終わる。すると、そこに現れた新人が：  
 「え、忘年会するんですか。年末は夜、ほとんどダメなんです」が、なんて言い出す。  
 社長に対して何てことを言うんだと思つていると、「あ、そうですね。忘年会やらなくてもいいですよ」と他の若い奴らも賛同する。  
 すると「今年は予算が厳しいな」と心の中で思つていた社長は「じゃあ、仕方ないな。若い奴らが言うんだから、忘年会はやめて、その代わりに新年会で盛り上げるか」なんて言い出す。

突然、はしごを外された感じで「え、いいの？」と思うのですが、そのときはじめて「そんな手があったのか」とも思う。「忘年会はするものだ。あとはどこでするか考える」という土俵の上には知らないうちに乗せられていた自分に気づく。私たちは、このように他人の設定した土俵に知らないうちに乗せられて、そこでの議論を強いられることがよくあります。そんなときに「忘年会、やらなくてもいいのでは」というまったく違うところから問題を投げかける。これを「異次元の矢」と呼びましょう。全然、違う次元から矢を射し込んで来る。

### 孟子の性善説

これができる人はほとんどいませんし、これができる人が世の中を変えていきます。そして、そのおひとりが親鸞聖人なのです。

が、親鸞聖人の話ともうちよつと先にして、その前に「性善説」と「性悪説」の話をしたと思います。

性善説、性悪説は古代中国で唱えられた思想で、性善説は孟子、性悪説は荀子の唱えた説として知られています。

性善説を唱えた孟子の時代には、生まれつきの心である「性」は「善」であるか、あるいは「不善」であるかという議論がありました。主な説は次の四つ。

(一) 性には「善」も「不善」もない  
 (二) 性は「善」にもなり得るし、「不善」にもなり得る  
 すばらしい世の中に生まれれば人は善をよしとするし、ひどい世の中に生まれれば不善をよしとする  
 (三) 生まれつき、性が「善」の人もいれば、「不善」の人もいる  
 ひどい親からも素晴らしい子が生まれることがあるし、素晴らしい帝王にもひどい子ができるところがある  
 (四) 性は「善」である  
 最後の「性は善である」が孟子の考えです。孟子は言います。人には、他の人を可哀そうだと思う気持ちが生まれつき備わっている、と。

たとえば、いま目の前で子供が井戸に落ちそうになっているのを目撃したら、誰でも「あ、かわいそう！」と思うだろうというのです。すみません、正確にい

えば孟子は「かわいそう」とは言っていない。わかりやすくするためにウソを言いました。孟子が言ったのは「怵惕惻隱」の心です。

「怵惕」というのはびっくりすること、「惻隱」というのは痛みを感じることです。

「あーわー!」です。テレビでドラマを観ていたとき、突然、誰かの手の甲の上がハンマーで殴られる映像を見た。そのとき、一瞬「あー!」と思いい、「痛っ!」と感じる。それが「あーわー!」、「怵惕惻隱」の心です。

現代の科学では、これをミラー・ニューロンの働きで説明します。自分の中に「鏡(ミラー)」が相手の痛みを映すように反応します。人のあくびを見ると自分もあくびが出るのもこれですね。

この「あーわー!」(怵惕惻隱の心)があるから、人の性は善である。孟子はこう言っています。

このような一瞬の心の働きを孟子は「端」とい

います。「端」というのは「いとぐち」で、一瞬の心の働きですから、すぐに消えてしまいます。井戸に落ちそうな子を見て「あーわー!」と思う。これが「端」。でも、実

際に助ける人は少ない。さまざまな理由をつけて、最初に感じた「端」である「怵惕惻隱」の心は消えてしまう。

しかし、この「端」は、ただのいとぐちではなく、「仁の端(いとぐち)」だと孟子はいいいます。端である惻隱を育てていくと「仁」という徳になるといいいます。

それを育てる過程、それが教育であると孟子はいうのです。

▼荀子の性悪説

さて、そこに「人の性は悪だ!」とぶちこんできたのが荀子です。

これってぼんやりしてると気づきませんが、実はすごいことなのです。

孟子と、その周囲の人は、人の性は「善」か「不

善」かを議論していた。それを「悪だ!」と言った。これは、最初の「忘年会」の議論で「やらなくていいのでは」というのと同じ「異次元の矢」です。

ちなみに現代では当然と思われている「善」と「悪」という反対概念。これは荀子より前にはほとんどありませんでした。それまであったのは:

「美」と「悪」

というのは「悪」というのは、もともとは「醜い」という意味でした。

ところが、荀子以降は「悪」と「善」とが対立

概念として使われ、「悪」が悪いという意味で使われるようになりました。

荀子の放った異次元の矢は、世界を変えたのです。

▼悪人だから往生できる

それによって仏教でも「善人は極楽に行き、悪人は地獄に墮ちる」と思われるようになりました。

それに対して「いやいや、悪人だって極楽に行

けるよ」としたのがお念仏ですが、親鸞聖人はさらに一歩踏み込んで「悪人だからこそ極楽に行けるんだよ」とおっしゃった。

これはびっくり!です。「びっくり」なんて言葉では全然足りないくらい

のびっくりです。忘年会の「やらなくてもいいでしょ」とか、荀子の「性は悪だ」というよりも、

ずっとびっくりです。そのお言葉が、親鸞聖人のお弟子である唯円の書いた『歎異抄』に載っています。

「善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」

善人だって往生するところだ。だから、悪人だったら当然だよ、とおっしゃる。当時の人も、

そしていまの人も「ええ!全然わかりませせん」となります。ひろん、

そうなることを予期していた親鸞聖人は説明をさ

れます。「善人」というのは、

自分の努力で善行を積み重ねて浄土に行こうとす

るだろう。それでは阿弥陀さまの救いの本願からはずれている。わたしたちは、どんなに努力をしても欲望をす

てることができない、そうおっしゃる。たとえば「努力をして

往生しよう」とか、「善行積んで浄土に行こう」とか、

それ自身が「欲望」なんです。そりゃあ、努力は意味ないわけですよ。助けてあげようか」と願をおこされたのが阿弥陀さま。

だから自力は無駄。「悪人」は、最初から

自分は極楽に行けるとも成仏できるとも思っていない。「自分はダメ人間だ」と思っている。全身

全霊で阿弥陀さまにお任せすることができ

る。だから「悪人だからこそ往生できる」と言うのだよとおっしゃるのです。

これは驚くべき「異次元の矢」です。

でも、だからといって悪人になれというわけではないのでご注意を!

安田登 NHK出版 使える 儒教 48 突破! 難攻不落の古典が 一気にと 臍に落ちる!

『使える儒教』 著者：安田登 NHK出版 学びのきほん

難攻不落の古典を「実用書」として読み直す。誰もが一度は理解してみたいと思いつつ、膨大な量と難解さで手も足も出ない儒教の古典「四書五経」。入門したくとも、世にある解説書もまた難しい。

その四書五経を「実用の書」として読んでみると、驚くほど臍に落ちる。今の生き方に何となく違和感がある、でも何をどう変えればいいのか分からない……。その答えが四書五経の中にある。

キーワードは、自分の心を書き換えるための「思」「学」「礼」。

古典漢籍の道を究めた著者による、儒教を使いこなすための見取り図。

このように、儒教を使いこなすための見取り図。